

第26回

難病・遺伝医学 セミナー

講演: 遺伝性変異動物を用いた放射線影響研究

2021年

2月10日 水 18:00-19:00

順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

講師紹介: 柿沼 志津子 先生

(量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 副所長)

座長: 岡崎康司 (難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

司会: 新井正美 (難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

概要: がんの診断や治療などの医療目的での放射線の利用が増加し、医療被ばく後のがんのリスクが懸念されている。ヒトの発がんリスクは、タバコや食事などの生活要因の影響が大きく、放射線被ばく後の発がんの原因が生活要因か放射線被ばくかを明らかにすることは現在のところ出来ていません。そこで、放射線被ばく後の発がんのリスクやその発生メカニズムを明らかにするには、実験条件をコントロールできる動物実験が必須である。特にヒトの遺伝病のモデルマウスを用いた解析では、放射線被ばく後に発生するがんには、自然発生のがんと比べて特有のゲノム変異が生じることが明らかになりました。また、放射線被ばく後の生活習慣によって、発がんを予防できる可能性も見えてきました。我々の最近の研究成果を紹介します。

申込方法: 以下の申込フォーム・QRコードよりお申込みください。

※開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/vyS13xspGmyhoBkR6>

LIVE配信 (Zoom) にて開催

2月9日 (火) 17時締切

※当日は、順天堂大学10号館1階105カンファレンスルームで講演致します。聴講もできますのでお時間がありましたら会場でのご参加もお持ちしております。



お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター/ゲノム診療センター

新井/原田 (内線71407/5167) 順天堂大学大学院HP QRコード

